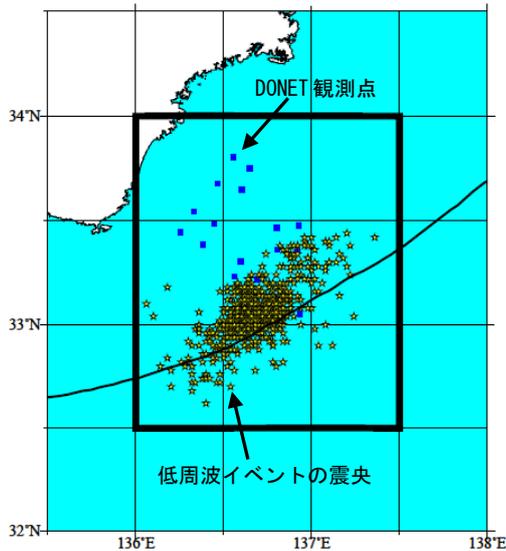


# 三重県南東沖の低周波イベントについて

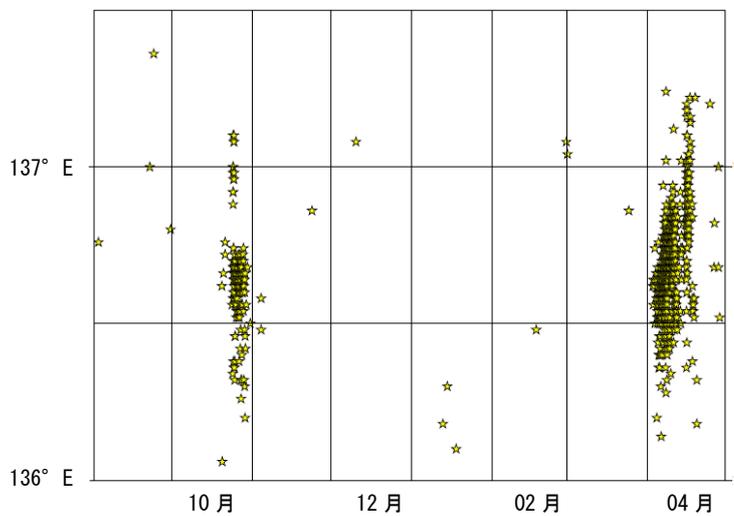
2015年9月1日から2016年4月30日の期間に DONET で観測された地震波形（バンドパス帯域 2-10 Hz）に対してエンベロープ相関法 [Obara, 2002; Annoura et al., 2016] を用いて解析を行い、低周波イベントの発生状況について調べた。<sup>\*1</sup>

- ・低周波イベントの震央は海溝軸付近に集中している
- ・2016年4月1日の三重県南東沖の地震 (M6.5) の2日後からまとまった活動（4月3日～4月18日）が発生した
- ・同様の活動は2015年10月24日～10月28日にもみられた
- ・2016年4月の活動では震央が東方向に移動するマイグレーションがみられた
- ・2016年4月14日の熊本地震の前震 (M6.5) ではイベントはトリガーされなかったが、4月16日の本震 (M7.3) 直後からそれまでの活動域より東側を中心とした活動が活発化した

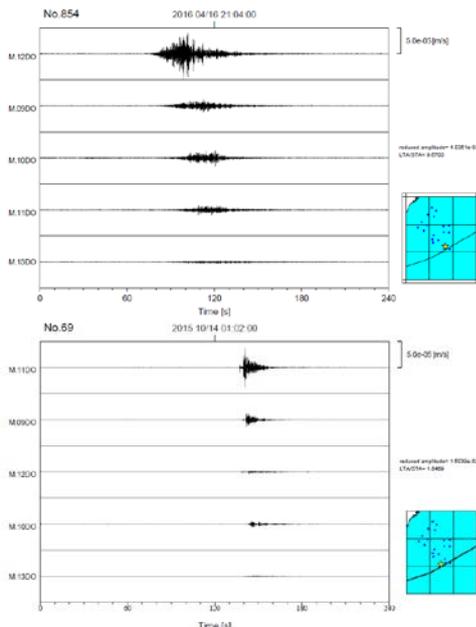
2015年09月01日～2016年04月30日



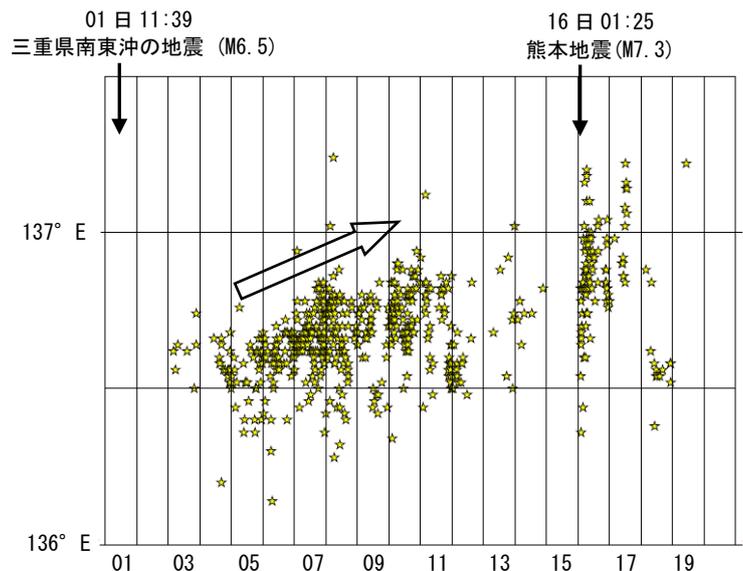
震央分布図



時空間分布



(上) 低周波イベントの波形の例  
(下) 通常の地震の波形の例



時空間分布 (2016年4月の活動)

<sup>\*1</sup> 期間中、エンベロープ相関法で決まった震源が34407個あった。震源距離によらない振幅値である reduced amplitude が一定値を越えた規模の大きなイベントだけを対象として (1374個)、目視で通常の地震を取り除く選別を行った (選別後 757個)。